



研究用試薬

ヒストファイブ

第一抗体
CD23モノクローナル抗体(1B12) (ヒストステイナー用)
(動物種: マウス)

包装: 60テスト(12mL) Code: 713341

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布: 分子量45kDaの細胞膜糖蛋白であるヒトFcεレセプターII (FcεR II、CD23抗原) と特異的に反応する。FcεR IIはIgEのFcに対する低親和性レセプターで、正常では末梢血中のB細胞の一部や単球に、リンパ節の濾胞性樹状細胞(follicular dendritic cell)に、腫瘍では慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫や前リンパ球性リンパ白血病に発現が見られる。
- クローン名: 1B12
- 抗体のサブクラス: IgG1, κ
- 製法: ①免疫原・・・FcεR II抗原の細胞外ドメインに相当するリコンビナントタンパク。
②免疫法・・・免疫原で免疫した Balb/c マウスの脾細胞とマウスミエローマ細胞 NS1/1-Ag4-1 との融合細胞(ハイブリドーマ)から抗体産生クローンを得ている。
- 由来: ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・CD23モノクローナル抗体(1B12)(動物種: マウス)。
液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と、0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に 12mL を含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒト FcεR II 陽性細胞の染色。

3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)として 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

■参考: 組織の固定状況等により 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の代わりにヒストファイブ 抗原賦活化液 pH9 (10倍濃縮)(Code:415211)またはヒストファイブ 抗原賦活化液 pH9 (調製済)(Code:415201)を用いたオートクレーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある。

4. 使用方法

- 1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。
- 2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を 30 分間とする。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染を引き起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD23モノクローナル抗体(1B12)
試薬略称(10文字)	CD23-MM
バーコード	CD23-MM
時間(分)	30

8. 主要文献

- (1) Kaiserlian D., et al. : Immunology. 80, 90-95, 1993
- (2) Aubry J. P., et al. : Leucocyte Typing III. 417-419, 1987
- (3) Kikutani H., et al. : Leucocyte Typing III. 419-422, 1987
- (4) Pallesen G., et al : Leucocyte Typing III. 383-386, 1987
- (5) Watson P, et al : Histopathology 36, 145-150, 2000

■ 研究用としてのみ使用すること。

■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化)：オートクレーブ処理
 - ①緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑥スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ビンを使用する)。

・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液9mL+B液41mL+精製水450mL

A液：0.1M クエン酸水溶液

クエン酸一水和物($C_6H_8O_7 \cdot H_2O$)2.1g/精製水 100mL

B液：0.1M クエン酸ナトリウム水溶液

クエン酸三ナトリウム二水和物($C_6H_5O_7Na_3 \cdot 2H_2O$)14.7g/精製水 500mL

A液、B液は常温で保存可能である。ここから必要な時に調製する。

■ 参考：ヒストファイン 抗原賦活化液pH9(Code：415201またはCode：415211)を用いたオートクレーブ処理の場合 (おもて面の■参考参照)

・ 抗原賦活化液pH9の作り方

・ Code：415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。

・ Code：415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。